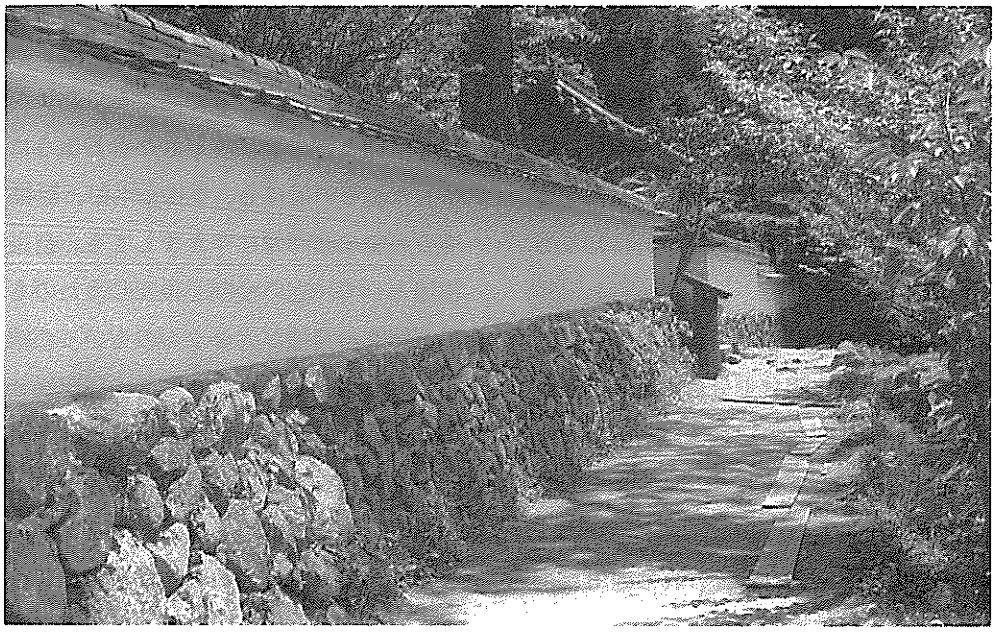
ならい生協連ニュース

No.17
95.1.10

奈良県生活協同組合連合会
奈良市恋の窪1丁目2-2　ならコープ気付
☎(0742)34-3535
FAX(0742)34-0043

山の辺の道を歩く　PART－3

大和平野には七世紀末には上・中・下ツ道と呼ばれる官道が設けられていた。山の辺の道はこの上ツ道の更に東側を山裾を縫うように走っていた。現在は東海自然歩道の一部として整備され、古代のロマンを求める人々で賑わっている。



＜玄賓庵（げんびんあん）＞

平安朝の始め、当代切っての智者といわれた玄賓僧都が世俗を離れ、隠棲した所であり、また謡曲「三輪」の舞台となった所でもある。

玄賓僧都が夜なよな庵に樒（しきみ）と水を運んでくる里の若い女人に、夜さむを哀れんで乞われるままに衣を貸すと、女人は「住家は三輪の山本近く杉立てる門」と告げて去った。玄賓僧都が訪ねて行くと三輪神社の二本杉にその衣が掛けてあった。女人は三輪の神だったのである。

静寂そのものの中に、すっと玄賓僧都が現れてくるような錯覚にとらわれる。謡曲の景色も人もそのままに、幽玄迫る世界である。

生協連
5周年を迎える年にあたって

会長　　繁田　實造

奈良県生活協同組合連合会に加盟しておられる五つの生協の組合員さん、あけましておめでとうございます。

今年は、われわれの奈良県生協連が結成されて丁度5周年を迎える年となりました。県連の発足当初は、それぞれの歴史と個性を持つ五つの生協がお互いに相手を十分に知りあい、相手を尊重しあうということからその第一歩が始まったわけですが、5年の年月の間にそれぞれの生協の間で十分な理解と信頼が得られ、真に腹を割って話し合い励ましあうことのできる関係ができたことは大変な成果であったといえます。

昨年は、幸か不幸か、われわれは細川、羽田、村山と3人の首相とあいまみえることとなり、政局激動の年であったといえますが、われわれの奈良県生協連は着実に自らの地歩を固めた年であったといえます。すなわち、行政との関係におきましても、県生協連ということで、単一生協では不可能なことについてまで、更に一層踏み込んだお互いに率直な話しあいが可能となり、そのことが、奈良県知事公室県民生活課発行の「消費者行政の概要」において消費生活協同組合一覧表が掲載されることへと繋がっていったといえます。

また、協同組合間連帯におきましても、県生協連内の五単協の連帯の強化については申すに及ばず、協同組合連絡協議会を通じ、農業協同組合や森林組合との間でもいくつかの新しい協同と連帯の試みがもたれるようになりました。その他にも、コメ、平和、福祉、環境をめぐる諸問題につきましても、奈良県生協連として一定の役割を果たしえたのも、過去五年間の蓄積が大きくものをいった結果だといえます。

県生協連結成6年目に入る今年、奈良県立商科大学において生協設立の動きがあり、新しく第6番目の仲間を迎え入れる可能性が大きくなったことは、われわれにとってもまことに喜ばしいかぎりであり、双手をあげて心から歓迎したいと思っています。

「会って直談するのが、悪感情を一掃するのに最上の方法である。」これは元アメリカ大統領リンカーンの座右銘の一つでありますが、悪感情一掃のためにではなく、相互理解、相互尊重のため、県連の充実と発展のために、今年も各方面に対して、積極的にお会いして直談していきたいと考えておりますので、どうか今年もよろしくお願いいたします。

心あたたまるまちづくり

奈良県地域婦人団体連絡協議会　　会長　坂上　有利

本会は昭和23年４月、県公会堂において発会式をあげ、民主団体・地域団体・社会教育団体として活発な活動が展開されました。

奈良県各郡市を単位とした地域婦人団体（単位組織）をもって組織し、単位組織相互間の連絡を保ちながら、その共通の目的である男女平等の推進・青少年の健全育成・消費者問題・環境問題・社会生活の刷新・高齢化社会への対応・地域社会の福祉の増進・世界平和の確立等の実現につとめるために、運動及び事業をおこなっています。

また地婦連活動はその大部分を我がまちの課題解決に向けて、そこに住む女性たちが自分のこととして力を寄せ合い、身近な人々との人間関係を大切にし、助け合うことを原点としています。

また課題への取り組みとして４つの専門部を設け、事業を実施しています。

◎総務部＝理事研修・幹部研修会を実施し、全国大会に参加、幹部研修では毎年６月に１泊２日で吉野山に実践活動の中核となるリーダーが集い、活動に結びつく方策を探るための研修をしています。年２回機関紙「奈良県地婦連」を発刊、全会員に配布しています。

◎教養部＝婦人大会、同和問題学習会、高齢化問題学習会、平和問題学習会、婦人政治講座を開催、教養講座の充実をはかっています。

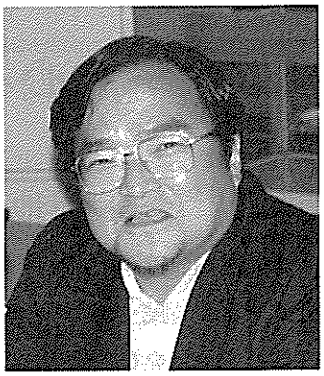
◎生活部＝環境問題学習会の開催やリサイクルへの取り組み、親切・美化運動の実践をしています。

◎厚生部＝健康と豊かな心づくりをめざし、体力づくりと親睦をはかるために2000名の会員が集い体育祭を開催、また健康学習会の開催や「結核ゼロをめざして」複十字シール運動の展開をしています。

私たち地婦連はその時代の社会の要求に応えながら、日本の発展とともに大きな成果を遂げて参りました。しかし社会が大きく変化し多様化・ボーダレス化した社会のニーズは見えにくくなってきています。お互いに支え合わなければ生きられなかった時代と違い、今は地域活動・社会参加等の枠にしばられたくない、人は人、私は私という考え方も多くなりましたが、その時代・その地域の課題解決には進んで参加し、力を合わせて行動してこそ安心して住める社会・地域になるのではないでしょうか。地婦連では皆で力を寄せ合い、心あたたまる住みよいまちづくりに励んでいます。

幹部研修会で力強く抱負をのべる坂上会長
（吉野山・芳雲館で）

『正月』つらつら思うに



奈良教育大学生協理事長　　淡野　明彦

年をとったせいだろうか。この頃は「何かが違う」という場面に多く出くわす。老人が口癖のように「昔は良かった」と懐かしむという心境ではない。いくら年をとったといっても、50才にはまだしばらくあるんだし。

「何かが違う」はあげればきりがないが、とりわけ「季節感がなくなった」というのがぼくにとってはかなり気になることだ。その中でもことに「お正月気分」は最たるものである。

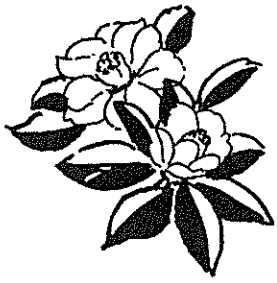
［年賀状発売］と聞いて、「今年もそろそろ暮れか」と感じるものの、ピンとこない。［おせち料理予約］と聞いて、「いよいよか」と感じるが、まだまだ実感がわいてこない。やがて、テレビが［紅白歌合戦］を映しだす。年の瀬の大詰めもいいところである。それなのにまるで暮れ行く年の感慨などなく、「またか」と紅白もただの雑音となってしまう。

明けて１月１日。いつもの朝と違うのは、やや周囲がのんびりとしていることくらいである。いつものドタバタした朝の風景に慣れているだけに、かえって退屈である。家族がそろった頃に、雑煮で正月を「祝う」。これから三日間は、まるで精進料理風の食卓である。

昼前に年賀状がごそっと配達される。出していただいた方には申し訳ないが、大した感激もなく、事務的に整理する。手元に残っている葉書で、お返しを書いて、ポストに行く。人も車もほとんどみかけず、ひっそりとしている。犬がチョロチョロしているのが、お愛想である。

お正月というものに対する意識が世間ではかなり薄らいでいると決めつけることは、ぼくの偏見になってしまうが、それにしても「何かが違う」。風習というものは固定的なものではなく、時の経過とともに変化していくものだから、ことさら定型的な「お正月」にこだわることもないだろうが、21世紀に向けて生活の質を求める指向が強まるなかで、あらためて年中行事とわれわれの生活との関係を、生活の安らぎという視点で見つめ直すことも意義深いことだと思う。

信州のお正月



奈良女子大学生協理事長　　阿部　百合子

わたしのふるさとは信州の更埴市。善光寺平と上田盆地の境にあって、人口4万の小さな町である。更埴市とは、千曲川を挟んで更級群の町と埴科群の町が合併してできたので、それぞれの群の頭文字をとってつけられたのである。“こうしょく”と読む。ふるさとで有名なところといえば、松尾芭蕉の更級紀行にもでてくる、夜ごとの月として知られている姥捨て山であるが、姥捨て伝説は楢山節考として映画にもなっている。もう一つ忘れてはならないのは、森の杏である。杏の花は4月の中旬の2週間が見ごろで、その間は全国から大勢の観光客が集まり大変な人だが、その期間を除くと、観光客はほとんど見当たらない。みんなす通りをして、志賀高原方面に行ってしまう。子供のころの森の杏は観光客にほとんど見られることなく我が町はひっそりとしていた。わたしがここで生活したのは、高等学校までで、そのあと30年以上奈良に住んでいる。両親も他界しているので、墓参りに時々帰郷する程度であるが、姥捨て川から善光寺平を見下ろす風景は懐かしい。年の瀬が近づくと、ときどき郷里のお正月を思い出す。わたしは6人兄弟で、両親、おばあさんと9人家族で生活していた。父が5人兄弟の長男で、しかも本家であるので、正月には、親戚一同が大勢の子供をつれて集まる。暮はおせち料理の準備、正月3が日はゆっくり休む暇もなく兄弟総出で来客の接待をした。母は、“長男の嫁は大変”とよく愚痴をこぼしていたが、わたしも、正月ぐらい接待される側にまわりたいものだとよく思っていた。しかし、年末に父に買ってもらい、床の間に飾っておいた赤いはなおの塗の雪下駄を15日のどんど焼の後で履けると思うとこれらのお手伝いもがまんできるものであった。今は、子供と二人の生活で、暮から正月にかけてのあわただしさはないが、それとともに正月を待つうれしい気持ちもだいぶ減ってきているような気がする。

北国のお正月

おやさと生協理事長　　孫入　静穂

雪をほとんど見ることのない大和の正月を過ごすようになって、今年で36年目。それなりに納得し満足しながらもやはり忘れられないのが、こどもの頃の銀世界の輝きの中に明けゆくふるさと北国の正月である。

年末の大掃除を家族総出で行い、しめ縄を張り、鏡餅を飾る。貧しきながらもご馳走も用意されると、新年を迎える心準備が万全となる。正月はもう目の前、除夜の鐘の音を聞きながら眠りにつく。

夜も明けぬ暗闇の街中に、初参りを急ぐ人たちのキュッキュッとゆきを踏む下駄の音、シャンシャンと鈴を鳴らして走りゆく馬橇の軽やかな音、新年を祝ってか馬もいななく。新しい年の始まりである。

一夜明けての元旦を迎えた心の不思議さ。昨日までの心とうって変わって、まるで世界が見違えるように新鮮に映る。何事にも幸せを感じられる。道往く見ず知らずの人にも、路地を走りゆくのら犬にも、屋根で鳴くカラスにも、校庭にそびえるポプラ並木にも、おめでとう、おめでとうと歓びを交わしたくなるような気分、晴れやかな喜び、湧き上がる楽しさに満たされる。

家族が揃って神前での祈りを成し、清められた心のままに食膳につく。アツアツの雑煮をいただく。お椀も箸も昨日までのそれと異なり、何もかも新しく始まり出した、という気分に導かれ、希望もふつふつと湧いて快感が走り抜ける。父が代表して、『新年おめでとう。今年も神様に守っていただき、元気で頑張ろう』との挨拶、元旦の朝のこの言葉は重い。家族は皆、神妙にこの言葉の意味をかみしめ確かめる。『よし、今年も頑張るぞ』と大きな声で叫びたくなる程である。

こうした伝統や習慣に則って、新しい心になる儀式を守るなら、こどもたちは、正月を迎える毎に精神的に大きく成長することでしょう。この意味合いを考えるなら形式的なことを軽んじてはならないように思う。

日が高くなるにつれ、銀世界はまばゆいほどに輝きはじめる。新年始めの儀式も終ってほっとしたこどもたちの心は、雪遊びにはやる。スケートや橇遊び、更に夜になると隣人も集まってのカルタやスゴロク、大人も加わっての百人一首の争奪戦、今思い返してもあのような楽しい時間の過ごし方が他にあったであろうか、と懐かしく思われる。

餅やみかんが本当にご馳走であった。お年玉もわずかであったが喜びが大きかった。貧しかったが夢も希望もいっぱいふくらんでいたなあ、と懐かしんでいる五十代の親父である。

奈良のお正月

奈良県労済生協理事長　　中南　又彦

大晦日恒例のＮＨＫ紅白歌合戦が終了すると、春日神社へ初詣での人達の下駄や靴の音と共に話し声が聞こえ、今年も一年が過ぎ新しい年を迎えたなと毎年思います。

元旦の雑煮は、一年の始まりであり昔から男が炊くものと母親に教えられ、おくどさんに、釜を据え豆がらを薪(しば)のかわりにして、煙で涙を流しながら「ひふき竹」を吹き、雑煮を作った９歳ごろの事を思い出しております。雑煮の中身は豆腐と、お頭芋で白味噌したてで大根、人参などは入れない、お頭芋はお椀に盛れば芋だけでお椀が一杯になり豆腐は椀からはみ出すほどの大きさです。人の頭に立つとの縁起物であり、大きければ大きいほどよいと母親が一番大きい芋をいつも私に食べさせていた記憶があります。母子家庭の子供だからと世間から後ろ指を指されないようにと、厳しく育てられました。（親の期待は裏切るもの）

親父の出里は剣豪で名高い柳生の里（現在は奈良市）の邑地ですが、中南の家風として、餅は（勿論丸餅）焼いて雑煮とは別の椀に餅を入れお湯をかけて「きなこ」をつけて食べるのが習わしで雑煮のなかには入れないのは、柳生でも珍しいことです。

昔々邑地の村に中南という大地主があり、その地主の家の前は沼地であったそうな、沼地には毎年多くの蛭がわき、困った主人は、「みけんの鐘」を突きながらお寺に祈願をしたそうな、仏様がお教えるには元旦のお祝いの仕方でありました。それからは毎年正月には仏様の教えの雑煮を食べ、家族みんなが「家の、前田が、割れますよう」にと一年の豊作を願って踊ったそうな。何代か前の主人がこんな邪魔くさいしきたりを止めたところ、その１年凶事が続き次の年から仏の教えにしたがった。という言い伝えがあります。

２代前の平蔵じいさんから止めたそうですが。総本家に分家の人達が正月に「モノモドーレ」（これも意味不明）と、挨拶をすれば座敷に上げられ雑煮を戴き、帰りに豆腐１丁土産に貰ったという風習もあったとか？
いまとなっては御伽噺です。

歴史と伝統とゆうほどのおおげさなものでないにしても今わが家ではお頭芋は小芋になり、餅は焼いて雑煮にいれ、「きなこ」で祝っております。二人の息子もそれぞれに所帯をもっており、元旦のお祝いのときはわが家の正月はかくありと話してはおりますが、「くどさん」がガスコンロに変わり、釜が近代的な圧力鍋に変わる時代の流れの中で、又アレルギー体質などと、いかに伝統を守ることの難しいかを身をもって体験しているこの頃の正月であります。

正月は「上天、休を降せり」であり平和で楽しいものでありたい。

―広がる協同・くらしの輪―

12／15　奈良県ＪＡ大会で挨拶する繁田会長

11／27　奈良県主催消費生活教養講座開催

11／28　ならコープ福祉活動交流会

12／9　故・下垣内博氏「消費者運動」出版記念するつどい

第２回県代表者幹事会報告

1994年12月７日（水）、東京・生協会館で開催され、「経営委員会」の委員の選出、「食の安全」をめぐる当面の問題、「協同組合のアイデンティティに関する声明（第３次案）」など協議・承認されました。

奈良市清掃業務審議会専門分科会報告

1994年12月12日（月）、共済会館やまとで審議され、大川奈良市市長宛てに「平成６年度専門分科会活動よりの提言書」①包装資材（食品トレー）の回収について②ごみ減量・リサイクル実施優良団体等表彰制度などの答申をまとめました。

“ディアーズコープいこま” オープン

11月23日（祝日）ならコープで、初めての700坪規模タイプの店舗が誕生しました。

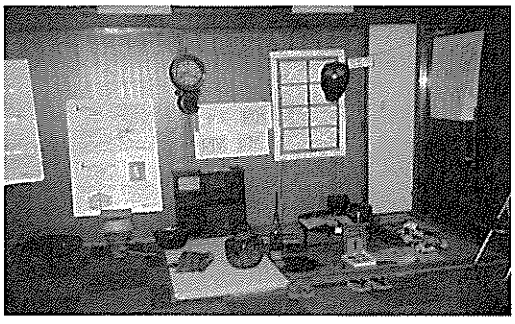
初日は、5,200名以上の来店があり、新規加入者も155名ありました。

テープカット

“ノーモア・ウォーのつどい” 開催される

12月4日（日）昭和地区公民館（大和郡山）に於いて146名が参加し、展示やアニメ映画を鑑賞しました。

挨拶する瀧川専務



戦時中の茶の間の様子を再現

Environment

『熱意』にほこりをかぶせないで

六条みどりの会（環境サークル）　西崎　佳子

4年前、牛乳パックの回収を目的に『コープ六条』を中心に結成された。

身近で出来るリサイクルとして、六条店で月1回の牛乳パックの回収を、ボランティアで始めた。ろうびきシッパーに一杯つまったパックは10kgはあるが、女の細腕（？）で、それを積み上げる作業を皆で熱心に行った。

当初は、開いていないパックや汚れたパックなどざらで、その都度組合員さんに『開いて、洗って、乾かして』と言い続けてきた。それを言われることに、苛立ちを感じる人もいたりするのには驚いた。仲間同士で『開いていないパックを 100枚もハサミで切り開く（乾いたパックはひじょうに固く、ハサミで切っていると手が痛くなる）方の身にもなってくれ』と愚痴をこぼすこともたびたびだった。それでもなんとか続いてきたのは、『とにかくなにかしなくちゃいけない』という気持ちが余程強かったのだろう。

牛乳パック回収風景

牛乳パック・トレーをきれいにとの呼びかけを

2年前からパックと一緒に白トレイの回収も始めた。『なんとなく、ゴミの山の中にいる気分になる』との感想もあった。みどりの会の会員の方も他の仕事と掛け持ちの人が多く、日程のやりくりが難しくなっていく。なにしろ、会員が増えないのだ。増やそうにも、会の『セールス・ポイント』がない。もはや『パック回収』だけでは、組合員はおろか、現『みどりの会』会員自体にもアピールすることができなくなってきている。初代の代表の人は『私、疲れたから』と言って、代表を退いた。その気持ちがよくわかる。

1994年の4月から、店舗での常時回収（牛乳パックのみ）となり、ほっとすると同時に気が抜けたことも事実である。暑い日、寒い日、雨の日、ほこりにまみれることはなくなった。しかし、『熱意』はほこりをかぶったままのような気がする。

世界を見つめ地域に生きる

奈良ＹＭＣＡ　奈良所長　　藤井　辰男

□団体概要

ＹＭＣＡとは、Young Men's Christian Associathionの略で、キリスト教青年会と訳し、キリスト教精神に基づいて、種々の青少年事業を行っています。

1844年、ジョージ・ウイリアムズら12名の青年がロンドンにＹＭＣＡを創立したのが始まりで、現在 123ケ国に、2300万人余りの会員を得るにいたっています。

日本では1880年に、初めて東京ＹＭＣＡが創立され、社会教育団体、青少年団体として、先駆的な役割を果たしてきました。

尚、奈良ＹＭＣＡは、1962年に23番目のＹＭＣＡとして設立されました。

□目的

世界に広がる会員相互の連帯をとおして、世界の平和と新しい時代の秩序を築くために、責任と自由と奉仕とに生きる人間の育成を目指す。

特に青少年を中心とする生涯学習活動に力を注ぎ、共に生きる社会の環境をつくり出すために、生涯にわたる協力と奉仕の活動を広くすべての人に訴えることを目的とする。

□主な活動内容

①人間の生命を大切にし、健全な心身を育成する体育・野外活動。

②青少年のゆたかな知性と人格の向上をたすける教育活動と生涯学習。

③広く青少年の参加を求め、奉仕の精神を養い人々の間に自発性と連帯感がよみがえるようなボランティア活動。

④歴史に対する深い洞察と世界的な視野に立って平和と公正を求め、その実現のための国際協力、交流活動。

□活動プログラム

体育活動・野外活動・スイミングスクール・ウエルネス活動・進学教育・語学教育・予備校・音楽教育・アートアカデミー・国際協力・交流活動・地域奉仕活動・ボランティア活動

□問い合わせ先

奈良ＹＭＣＡ西大寺本館

〒 631　奈良市西大寺国見町　2-14-1

TEL 0742-44-2207

募金活動をするＹＭＣＡの仲間たち

Welfare

無理せず暖かく優しい心で

サークル・ましゅまろ（福祉サークル）　　羽藤　茂子

やあ　外の景色がよく見えるようになったわぁ、ありがとう、とか。今日は、高校の生徒さん４人と先生１人ですかと言われ、大笑いしながらのガラス拭きであったり、榛原町内にある特別養護老人ホームでの一コマです。草取り、窓ガラス拭き、椅子やテーブルの汚れ落とし、建物の外側のクモの巣取りなど労働奉仕が中心ですが、話しかけてこられるお年寄りのお相手をしながらの作業の時もあります。

サークル・ましゅまろは、平成４年４月、榛原地域でならコープの「たすけあいの会」に入会している人に声がかけられ、発足しました。年度初めにメンバーが集まり、１年間の活動計画を話し合います。（１）養護老人ホームでの労働奉仕を柱に、（２）町内の福祉現状調査、報告や施設見学＜今年度は、90年前に設立された、何らかの理由で親と住めない子供達の施設、大和育成園を訪ねお話を伺いました。園長はここの子供達に町で出会ったら、自尊心を傷つけないよう励ましの言葉での支援を願いますとおっしゃったのが印象的でした＞（３）ならコープの行事への参加、「たすけあいの会」のＰＬ活動への協力。＜よろこびフェアーに参加してたすけあいの会のチラシを配りながら、ドーナツタイ米のポン菓子など販売しつつ親睦を深めました＞（４）釜ケ崎へ衣服を送る＜男性用の冬物の衣類や毛布等を集めて届けました＞

サークルとして販売出店

労働奉仕のお仲間（左から２番目）

この他に、年３回の集まり、ましゅまろだよりの発行、ならコープの福祉サークルの交流会や、たすけあいスクールへの参加等、13人のメンバーが関心のある場へ出席しています。お勤めの人、学校や地域の役目をもっている忙しい人達ばかり、無理をせず細く、長く、活動していこうと話しあっています。ましゅまろの花言葉のように、暖かく、優しい心で・・・。

ひまわりのように・・・

かすが共同作業所　　古木　一夫

車椅子の通れない改札口、階段が多く障害者用トイレのない駅など、障害者が安心して列車を利用し自由に旅をすることができないというのが現状です。

「列車に乗ってみたい」「旅に出てみたい」という障害者の願いや夢を実現させようと1982年の11月、上野－日光間初めて「ひまわり号」が走りました。そして、その運動の輪は年々各地へと広がり、今では毎年70日本以上もの「ひまわり号」が全国を駆けめぐっています。

僕がひまわり号を知ったのは、大学一年の夏でした。その年は浜松への旅で、その日のことはあんまり覚えてないけれど、たったひとつ今でも忘れられない事があります。僕は全盲のおじいさんの介助についていて、トイレに連れて行ってくれと言われ一緒に行ったときの事。連れションしながら、じいちゃんが「こんなに遠くまで来たのは生まれて初めてです。恥ずかしい話ですが、こんな年寄りがきのうは興奮して遅くまで寝付けなかったです」と、見えない目で僕を見ながらなんだか生真面目そうに、笑顔で話してくれたのでした。

実行委員をやることになった二年の春。その年の企画は、彦根城 113階段をみんなで登ろうというものでした。ある歩行困難の女の子は、自分の足で歩くんだと言って車椅子をおり、 113段を登り切りました。ある車椅子の男性は、こんな俺でもやればできるんだなぁと、汗と一緒に涙を流していました。ある号車には車椅子に乗った小さな男の子がいました。そのまん丸顔の男の子に言葉はなく、ただじっと、ただじっとその子は窓の外を流れる景色を無表情のまま見つめていました。お母さんにたずねると、「この子は、これでとても喜んでいるんですよ…」と教えてくれたのでした。その年の冬、男の子は病気でひまわり号を最初で最後の列車の旅の思い出にして逝ってしまいました。一緒にうつした写真を渡すことができずにボランティアは悔しくて泣きました。

「ひまわり号」はその日一日限りのお祭りではありません。「ひまわり号」は、列車を走らせることだけが目的ではなく、同時に安全な公共交通機関づくりや誰もが住みよい街づくりを目指す運動です。

大学四年の時に奈良へ走ったのをきっかけにこの地で就職することになりました。翌年、奈良で初めての「ひまわり号」が須磨へと走りました。運動は着実に発展し、今年６回目を迎え、若い人達の参加も少しづつ増えてきています。ひまわりのような、みんなの笑顔が消えないように、「ひまわり号」が走らなくてもすむ社会の実現を目指してこれからも多くの人達と手をつなぎながら頑張っていきたいと思います。

県連活動Are・Kore

奈良教育大学生協

理事会では、大学のコミュニティープラザとしての食堂ホールづくりを論議して来ましたが、この度増設部分の壁に「COOPギャラリー」と称して、入江泰吉氏による奈良の四季の風景写真のパネル展示を始めました。組合員からは「掲示が終わったら写真をもらえますか」などの問い合わせもあり、注目を集めています。また、11月30日と12月1日の両日、大学の栄養士さんや家庭科学生の協力も得て、学生委員会が中心になって「食生活相談会」を行いました。

同時によりよい食生活を提案しようと「料理のつどい」を企画し、食生活相談会の参加者に呼びかけました。当日は、大学学生課の栄養士さんや家庭科の研究生に協力をいただき、専門的なアドバイスを受けることもできました。

また12月4日には、厳しくなる就職活動のサポートとして、学生課と共催で教員採用試験の学内模擬試験を実施しました。

(疋田専務理事)

労済生協

①労済生協では、年間目標の最大課題である「加入者増強」に向けて「主要協力団体代表者会議」を開催し、協力要請を行いました。又、そのフォローとして労済生協の理事が未加入者団体オルグをして頂くことにもなりました。

②月払い加入団体の実務担当者研修会を行いました。

この事は、加入・給付事務について、協力団体、労済双方が協力し合い、より迅速な事務・給付処理をし、加入者の期待に応えてゆくかをめざしたものです。又、協力団体の担当者の方も毎年交替される所があり、生協精神や理論も合わせて理解を頂く絶好の機会にもなります。

③ありがとうキャンペーンの展開中です。

新しく発売した「ねんきん共済」を主軸にしたキャンペーンです。

この制度は特に若年層の女性に加入して頂きたい為、キャラクターも若い女性を起用し(南果歩)テレビCMもテレビ朝日のニュースステーションに番組提供をして活動しておりますので皆様も是非一度資料など取り寄せて頂き、ご検討の程お願い申し上げます。

(中井事務局次長)

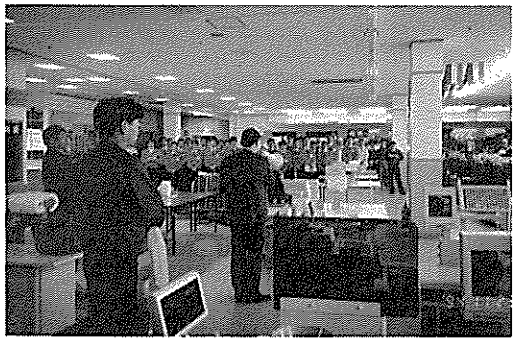
ならコープ

創立20周年の記念企画は、11／23鑑賞会ミレルデのミュージカル・マイフェアレディ公演に 1,051名の方が参加されました。また、ブロックごとの20周年企画として「小椋桂トークショー」「上方落語会」などで、多くの組合員が楽しい一時を過ごしました。

生協強化月間の取り組みとして11年目を迎えたユニセフ、被爆者救援募金はそれぞれ 395万 380万円が組合員の「たすけあい」の気持ちと共に寄せられました。

また、消費者の暮らしを守るための緊急署名が提起され、短期間にもかかわらず、「米の自給率アップとガット批准反対署名」61,376名・「消費税率アップ反対署名」75,204名の方から寄せられ、国会要請行動に合わせ総理府内閣総理大臣官房に提出されました。

環境の取り組みは、今年度から新たに登録した牛乳パック回収のミニステーションは 675ケ所の登録となり、回収量が徐々に増加してきています。



いこま店オープン前の店長挨拶

レインボーカップテニス大会には 171組 342名が参加しました。福祉活動の分野では、11／24フェスティバルの売上げなどから車椅子 9 台が県社会福祉協議会に寄贈されました。平和の分野では、12／4に「ノーモア・ウォーのつどい」で子どもたちと平和の大切さについてともに考えました。

11／23には、ならコープはじめての 700坪の売場を持つ「ディアーズコープいこま」がオープンし、地域と組合員のくらしに今後ますます貢献することが期待されています。

（組合員活動部・新田課長）

奈良女子大学生協

奈良女子大学の記念館と守衛室が国の重要文化財の指定をうけることになったのは、皆さんご存じですか？この秋一番のビッグニュースです。

歴史と伝統のある奈良女子大学に設立された当生協は、いま、21世紀に向けて「中期計画」の討議を行っています。奈良女子大学は家政学部に続き文学部も来春には学部改組が行われますし、大学寮も来春からいよいよ建て替えが始まる予定と大きく動いております。生協も遅れることなく将来設計をもって、大学と共に21世紀へ飛躍をしたいと思います。

（小林専務理事）

県連日誌

12／4　第４回ノーモア・ウォーのつどい

12／7～8第２回県代表幹事会議

12／12　第２回奈良市清掃業務審議会専門分科会

12／15　県ＪＡ大会

1／13　第２回府県連協議会（関西地連）

－お知らせ－

アース基金

基金集めについての報告とお願い

寄付金　11／24現在合計　462,501円

バングラディシュ支援　223,501円

ＣＡＳＡ派遣費用援助　239,000円

引き続き、寄付キャンペーンを実施していますのでお願い致します

本のご案内

「消費者運動」　著者　故　下垣内博氏

前　大阪消費者団体連絡会事務局長

我々に残した消費者運動の“道標”

大月書店　　２３００円

福祉講座のご案内

（奈良福祉法人・奈良県社会福祉協議会主催）

日時　１月21日（土）午後１時半～３時半

講演　後藤義明　積水ハウス（株）

生涯住宅研究所主席研究員

「健康で豊かな生涯を共に生きる住まいづくり」

会場　奈良県社会福祉総合センター

（近鉄橿原線畝傍御陵前下車徒歩３分）

日時　２月18日（土）午後１時半～３時半

講演　沖藤典子　ノンフィクション作家

「高齢社会の介護と家族」

－国際家族年と女性－

会場　奈良県社会福祉総合センター

（近鉄橿原線畝傍御陵前下車徒歩３分）

申し込み問い合わせは

奈良県生活協同組合連合会

tel.０７４２－３４－３５３５まで